新宿御苑は東京で最も優れた花見の名所の一つで、苑内には 65 種ほどの桜の木が約 1000 本植えられています。品種によって開花時期が異なるため、新宿御苑の桜の見頃は比較的長くなっています。中でも最高の見頃は、東京で最もポピュラーな桜の品種ソメイヨシノが開花する 3 月下旬から 4 月上旬です。その後 4 月中旬からは、イチヨウやカンザンなどの八重桜が見頃となります。

桜は 8 世紀に編纂された万葉集や古事記にもその名があるように、古くから日本文化において重要な役割を果たしてきており、平安時代（794～1185）にはそれまで以上に顕著な存在となりました。19 世紀には品種改良技術の急発展により何百もの観賞用品種が生み出され、現在最もポピュラーな品種であるソメイヨシノもこの時期に開発されたと考えられています。

日本は桜で有名ですが、多様な桜の木が揃っている新宿御苑は、花見における長い歴史を有しています。1917 年からは皇室主催の観桜会の開催場所となり、1952 年からは総理大臣主催の「桜を見る会」が毎年開催され、世界中の賓客をもてなしています。

桜開花カレンダーと新宿御苑で見られる主な品種

ソメイヨシノ（*Cerasus × yedoensis*; Matsumura “Yedoensis”）

満開時期：3 月下旬～4 月上旬

この非常に人気の高い品種は、19 世紀半ばに別の桜の木 2 品種を交配して初めて栽培されました。東京北部の染井村で育成されたこの品種は、当初は吉野桜として知られていました。生育が早く花が美しいことから、ソメイヨシノは 20 世紀初頭から広く植栽され、現在では日本で最も一般的な桜の木となっています。海外でも人気が高く、日本の桜として最も代表的な品種であると見なされています。

葉より先に咲き一気に樹体全体を覆う花は、わずか数日の後に一斉に散り、美しいピンクの花びらのカーペットを作ります。

苑内には約 400 本のソメイヨシノが植えられています。

イチヨウ (Cerasus lannensiana; “Ichiyo” Koidzumi)

満開時期：4 月上旬～中旬

八重桜の代表的品種の一つであり、鎌倉時代（1185～1333）に生み出されたと言われています。
御苑の八重桜の中心となる品種で、約 130 本が植えられています。

カンザン (Cerasus lannensiana; “Sekiyama” Koidzumi)

満開時期；4 月中旬

カンザンもまた美しく非常に人気のある八重桜の一品種であり、イチヨウに比べると花が大きめで紅色が強く、華やかな印象です。御苑には約 90 本あります。